

Public Information Furubira

2013 [平成25年]

広  
報

# ふるびら

10 月号

No.455

FIRE HYDRANT  
消火栓



古平小学校 校内マラソン大会 (9月12日)

# 学テから見えた、基礎学力と生活習慣

文部科学省は先月27日、全国の中学3年生と小学6年生を対象に行った「全国学力・学習状況調査（以下「学力テスト」）」の結果を公表しました。

## 小学6年生の特徴

■小6は全道平均を上回ったが、全国を下回った  
小6の4科目の平均正答率は、全道平均を上回っていますが、全国平均以下でした。国語A、国語B、算数Bは全道平均以上で、特に国語Aについては全国平均以上でした。しかし基礎的な知識を問う算数Aは、全道平均をも下回りました。（表1参照）

■勉強もするが、睡眠時間を削ってテレビ等を見る傾向にある  
しかし平日に2時間以上テレビ等を見る児童は、94・7%で、全道の64・5%、全国の62・5%を大きく上回っています。勉強もするが、テレビも見る傾向にあります。（表3参照）

■規則正しい生活は家庭との連携が必要  
朝ご飯を食べ、規則正しい生活をしている子どもの方が、学力テストにおいて平均正答率が高い傾向にあることが全国的に明らかになっています。古平では朝ご飯を必ず食べる児童は89・5%でした。

も多いことから、古平の6年生は家庭で学習する習慣が身につけていると考えられます。（表2参照）

また、平日に1時間以上ゲーム等をする児童は52・6%で、全道は62・2%、全国は53・0%となっています。それが3時間以上となると古平が26・3%に対して、全道は20・4%、全国は14・9%と、格段に増えます。

以上のことから町で数年前から推進している学習習慣の定着と朝ご飯、早寝早起きという規則正しい生活が、早寝の部分で若干乱れてはいますが、教育委員会と学校が連携して授業以外に取り組んできた「放課後ふるびら塾」（教育委員会主催）や「放課後学習」（小学校主催）の成果により、家庭学習の習慣化は定着していると考えられます。

■勉強する学習習慣は定着している  
学力テストと同時に行われた学習状況調査から平日の勉強時間を問う質問では、1時間以上勉強すると答えた児童は84・2%でした。同じ質問での全道の割合が50・5%、全国の割合が63・2%であることや、一般的な勉強時間の目安と言われる「学年×10分」より

表では示しませんが、寝る時間は、午後10時～午前0時の割合が古平は68・5%に対して、全道は43・3%、全国が50・4%と遅く寝る傾向にあり、起きる時間、全国・全道と同じような時間であることから、

寝る時間を削ってテレビ等を見ていると考えられます。

規則正しい生活習慣の重要性をしっかりと理解し、各家庭が対応しなければいけない問題です。

【表1】正答率の全国・全道平均との比較（単位：%）

科目	平成25年度				平成22年度（現、中3が小6時）				
	全道との比較		全国との比較		全道との比較		全国との比較		
	全道の平均正答率	古平の平均正答率	全国の平均正答率	古平の平均正答率	全道の平均正答率	古平の平均正答率	全国の平均正答率	古平の平均正答率	
小学校	国語A	60.4	高い	62.7	高い	76.1	低い	83.3	低い
	国語B	46.4	高い	49.4	低い	62.4	低い	77.8	低い
	算数A	74.9	低い	77.2	低い	71.5	高い	74.2	低い
	算数B	54.0	高い	58.4	低い	41.2	低い	49.3	低い
	計	58.93	高い	61.93	低い	62.80	低い	71.15	低い
中学校	国語A	76.0	低い	76.4	低い	△			
	国語B	66.2	低い	67.4	低い				
	数学A	62.3	低い	63.7	低い				
	数学B	39.1	高い	41.5	低い				
	計	60.90	低い	62.25	低い				

今回の学力テストは基礎的な知識を問う国語A、算数（数学）Aと応用的な知識を問う国語B、算数（数学）Bの計4科目で、古平町でも小学6年生19人と中学3年生16人が4月24日にテストを受けました。

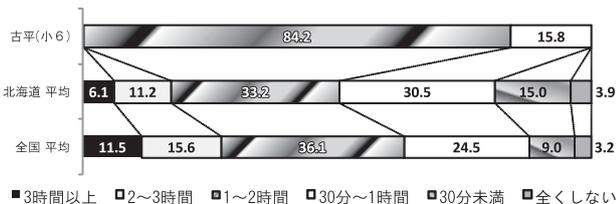
教育委員会の方針で古平町の正答率は公表しませんが、全道・全国平均と比べた本町の状況や浮彫となった課題について今月号でお知らせします。

表では示しませんが、寝る時間は、午後10時～午前0時の割合が古平は68・5%に対して、全道は43・3%、全国が50・4%と遅く寝る傾向にあり、起きる時間、全国・全道と同じような時間であることから、

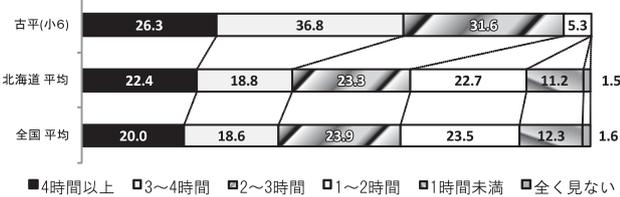
寝る時間を削ってテレビ等を見ていると考えられます。

規則正しい生活習慣の重要性をしっかりと理解し、各家庭が対応しなければいけない問題です。

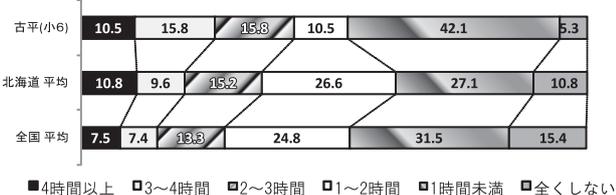
【表2】平日(月～金曜日)の学校授業以外の勉強時間(小6)



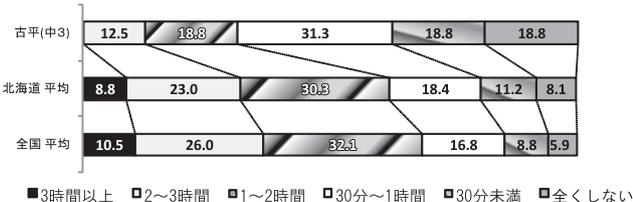
【表3】平日(月～金曜日)、テレビやビデオなどを見る時間(小6)



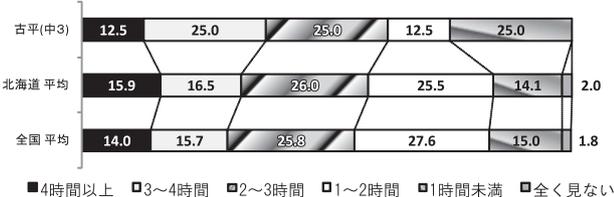
【表4】平日(月～金曜日)、コンピューターゲームなどをする時間(小6)



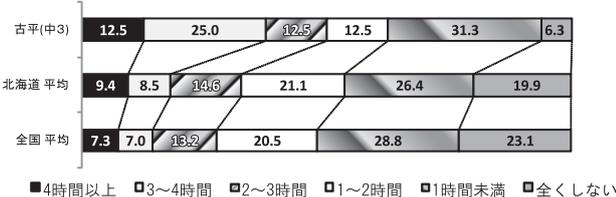
【表5】平日(月～金曜日)の学校授業以外の勉強時間(中3)



【表6】平日(月～金曜日)、テレビやビデオなどを見る時間(中3)



【表7】平日(月～金曜日)、コンピューターゲームなどをする時間(中3)



### 中学3年生の特徴

■中3は全道・全国以下  
中3の4科目の平均正答率は、全国平均を下回った全道平均をさらに下回りました。国語が数学よりも全道・全国との差が大きく、苦手である状況です。

■勉強時間が不足していることが顕著  
平日の勉強時間では、1時間以上勉強する古平の生徒は31・3%だけでした。

全道は62・1%、全国は68・6%と、明らかに古平の生徒の勉強時間が少ないことがわかります。全く勉強しない生徒も18・8%と高い割合でした。(表5参照)

■勉強よりもテレビ・ゲームの傾向  
平日に2時間以上テレビを見る古平の生徒は62・5%で、全道は58・4%、全国は55・5%でした。(表6参照)。平日に1時間以上ゲーム等をする生徒の割合

は62・5%で、全道・全国の割合はそれぞれ53・6%、48・0%(表9参照)。3時間以上のゲーム等でも古平が37・5%に対して、全道は17・9%、全国は14・3%と、小学生同様に長時間のゲーム等の割合が高いです。勉強時間が少なく、テレビ・ゲームの割合が多いという状況です。

■しかし全国との差は縮まった  
全道・全国平均を下回りましたが、全国との差は、中3が小6だった3年前の学力テストと比較すると、その差は縮まっています。

家庭で学習していて、わからない部分が出てくると、そのまま止めてしまうとケースが多いことから、中学校では2年前から、授業とは別に補習タイムを設けています。補習タイムでわからない部分を解決し、そこから家庭学習の充実に繋がれるよう取り組んでいます。その効果が現れたと考えられます。

### 最後に

成田昭彦教育長は、今回の学力テストの結果を受けて次のように言っています。「学力テストは順位を付けて、それを競うものではありません。あくまでも現時点の子どもの学力や理解度を測る物差しです。学力がつくことで、子どもたちの将来の夢や可能性などの選択肢が広がります。ですからこれまで以上に教育委員会と学校が、家庭と一体となって、望ましい教育のために協力し合いながら進めていきたい」

# 議会・町長が被災地を視察！

## 視察目的

東日本大震災から2年数カ月が経ち、復興に向かって住民の生活環境が着実に進められているのか現地調査を行うとともに、古平町の防災のあり方を検証する。

## 視察参加者

逢見議長、鶴谷副議長、本間町長、木村議員、本間議員、岩間議員、工藤議員、高野議員、堀議員、中村議員、議会事務局職員（2名）計12名

## ◆7月1日（火）視察1日目 南相馬市

### ○南相馬市の被災概要

南相馬市は、2006年に鹿島町と原町及び小高町が合併したまちです。大震災により（津波高16・3メートル）人口7万895人（H22国調）のうち死者・行方不明者638人（H24年3月末時点）、世帯数においても2万3、898世帯のうち被害世帯が1、509世帯（H23年5月末時点）にも及びました。

また、原発事故での市外避難者と転出者は3万6、993人（H23年

6月末時点）にもなっています。



南相馬市 桜井市長と懇談

### ○参加議員の所感

放射線量の高い帰宅困難な双葉町の境界近くからは、通行証提示という交通規制のため入れず、そこまでバスで現状を視察しました。荒れ果てた廃屋や転がった車両の瓦礫化した悲惨な現状を目の当たりにし、一体が廃墟となっており、放射能と地

震の恐ろしさを実感しました。

南相馬市は、三陸地方と違って海沿いに集落が少なかったため津波での被災家屋が他の市町村よりは少なかったようですが、放射能という目に見えない恐怖に晒されています。

国は放射性物質の汚染を除去することに責任を持って取り組むとしていますが、放射線量の高い南相馬市小高地区や波江町、双葉町以南の隣接地域は、簡単には進みそうもない様子に見受けられました。

放射能で地元に戻るものの出来ない人たちのため、国・県・市町村が真剣に取り組んで被災者が一日も早く戻れることを心より願います。

## ◆7月2日（水）視察2日目 石巻市

### ○石巻市の被災概要

石巻市は、大震災により（津波高7・4メートル）人口16万704人（H22国調）のうち、死者・行方不明者3、735人（H24年3月末時点）、世帯数においても7万4千世帯のうち被害世帯が5万3千世帯（H24年1月末時点）、最大避難者数5万758人（H23年3月17日時点）に及びました。

### ○参加議員の所感

石巻市街地は、ある程度、瓦礫撤去は進んでいましたが、まだあちらこちらに津波被害と思われる大きく崩れ落ちた建物が見受けられ、震災の凄まじさが想像されました。

ガイドさんの話や津波襲来時のDVD、市役所担当者から、最初は静かに、その後一気に襲ってくる津波の恐ろしさを伺い、テレビ等の報道で感じていた想像をはるかに超えた現実があったことを強く感じました。改めてお見舞い申し上げます。

また被害にあった石巻市立病院脇



石巻市役所で挨拶する逢見議長

の空地に数百台を超えるスクラップ化した車が山積みになっており、中には数台の消防車や救急車両があったことに強い衝撃を受けました。

その他、鮎川漁港の工事現場も視察しましたが、地盤沈下が1<sup>メートル</sup>近くもあり、海水浴場や周辺人家がすべて呑み込まれ、何もないグラウンドのような状態で、工事車両だけが行き来しており、復興の長期化が予想される感じがしました。

私達は今回の視察で学んだことを多くの人に知ってもらい、今後の防災活動に生かし訓練やその備えの必要性を訴えていきたいと思いました。

### ◆7月3日(木) 視察3日目 南三陸町

#### ○南三陸町の被災概要

南三陸町は、2005年に志津川町と歌津町の2町が合併した町です。大震災により(津波高15・9<sup>メートル</sup>)人口1万7、431人(H22国調)のうち死者・行方不明者845人(H25年2月末時点)、世帯数においても5、362世帯のうち被害世帯3、311世帯(H25年2月末時点)。最大避難者数は8、719人(H23年4月3日時点)に及びました。

この庁舎の3階で遠藤さんは最後まで防災無線で避難を呼びかけていました。



南三陸町防災庁舎

#### ○参加議員の所感

南三陸町では、鉄骨部分だけの防災庁舎が無残な姿で残っていました。この庁舎3階で最後まで避難を呼びかけ、命を落とした遠藤未希さんのことは記憶に新しいところです。

震災当日、遠藤さんは防災無線で津波が押し寄せるギリギリまで避難を呼びかけ、15<sup>メートル</sup>の津波が襲来した時は、遠藤さんの他52人がこの庁舎に避難していました。巨大な津波は、屋上のフェンスを破り、42人を流しました。このうち、1人は別の建物に流れ着いて助かりましたが、41人が犠牲となり、津波が去ったあと、

屋上に残っていたのは、非常階段にしがみついていたわずか10人だけでした。

そのような出来事があった南三陸町を我々が訪れた時、市街地の瓦礫はほとんど片付けられ、ほぼ更地の状態でしたが、まだ震災の爪痕が各所に残り、惨状は想像を絶するものでした。町では復興計画の「防災と減災」の考え方でまちづくりが進められています。これまでは、「逃げ」を基本として、防潮堤などで「防ぐ」としていましたが、今後は、住まいの高台移転や低地の土地利用規制などにより「安全な場所に住む」という考えに変更しました。

さらに計画では、町民意向を踏まえ、志津川地区の山を切り崩し、住宅を高台に移し、その切り崩した土砂で低地を平均4<sup>メートル</sup>高上げする予定です。そこに主要産業の水産業などの再建を進めるほか、町外から企業を誘致する区域や観光施設を誘致する区域を設けることとしています。しかし、地震による陥没場所も多数あり、港や道路、土盛り等の復旧に何年かかるのかも見当がつかなく、被災地復興は、東北の課題だけではなく国民すべてが共有すべき課題であることを再認識しました。

古平町でも避難道路の整備、防波堤や護岸の高上げ等に真剣に取り組

むべきだと感じました。

### ◆7月4日(金) 視察4日目 釜石市

#### ○釜石市の被災概要

釜石市は、大震災により(津波高9・3<sup>メートル</sup>)人口3万9、578人(H22国調)のうち死者・行方不明者1、046人(H23年11月末時点)、世帯数においても1万6、182世帯のうち被害世帯が4、548世帯(H23年11月末時点)。最大避難者数は9、883人(H23年3月17日時点)に及びました。

#### ○参加議員の所感

被災から2年以上も経ちますが、まだまだ手がつけられていない所も多く、問題点の多さも復旧には多大な時間がかかると予想されました。現地で状況を視察して思ったことは、本当にここに来て、見なければ知り得ない苦労や大変さが身に染みて感じました。

そのような中で、釜石市は「防災教育」に力を入れておりました。それは子どもたちの安全確保や防災意識を子どもから大人、大人から地域全体に根付かせ、住民に津波の知識を持ってもらうというものでした。

群馬大学大学院教授、広域首都圏防災研究センター長の片田敏孝教授



# 東北被災地の視察を終えてく

## 首長の視点から

大きく異なっていたのである。

### 異なる被害

7月初旬、東日本大震災被災地に対する励ましを兼ね、「井の中の蛙」にならないよう「百聞は一見に如かず」の思いで議員の皆さん共々、南相馬市、石巻市、南三陸町、釜石市の4自治体の視察研修をさせていただきました。

発生から2年半が経過しながらも思うように復興が進まず、被災当時の惨劇が脳裏に浮かぶ光景に、皆一様にため息交じりの声を挙げ、改めて災害の怖さを実感したところであり、ここに私なりの報告をするものであります。

### 初めて被災地に降り立って

アメリカ海兵隊による「トモダチ作戦」が敢行されて早期の復旧にこぎつけた仙台空港は、震災直後の破壊された空港のイメージは見られなかったが、貸し切りバスに乗車して目線を高くし、左手に太平洋側沿線の荒涼たる光景を眺めながら南下する中で、日本有数の米どころである仙台平野の田園風景が続いた。地盤沈下と津波で大きな被害を受け、田圃の位置で排水機能などに格差が生じていたことから、その復元力も

最初の視察地は南相馬市であったが、他の3自治体とは違って一部地域では地震・津波以外に福島第一原発事故の影響もまともに受け、かなり大きなリスクを背負っていた。当時、放射能漏れによって食糧・燃料等の救援物資が満足に届かなかつたため、桜井市長は動画投稿サイトで「兵糧攻め状態だ」と日本政府の対応を批判し、広く全世界に発信して支援を訴えたことから、当時は世界で最も影響力のある100人の1人に数えられた首長で、挨拶交換では豊浜トンネル崩落事故の話題も飛び出したのである。ただ、リアス式海岸を持つ他の自治体の津波被害も尋常ではなく、海岸線で津波被害は勿論、泊原発のUPZ圏内である本町も、より万全な対策を講じなければと痛感させられた。

### 復興の妨げは

起伏に富んだリアス式海岸を持つ石巻市、南三陸町、釜石市だが、そこには大きな河川流域に大都市を擁

する地域や大小の集落が点在して町を形成している地域もあり、入江の形状によって津波の高さに大きな違いがあったり被害程度にも格差が生じ、復興のスピードにもバラつきが感じられた。復興の妨げの元凶はなんだろう？ 今回の地震は地殻の変動によって大変大きな地盤沈下（石巻市鮎川120cm、南三陸町80cm、釜石市50〜60cm）や液状化をもたらし、全面的な盛り土嵩上げが不可能な状況に加え、各自治体の地理的状況の違いにより、まちづくりの基本方針と住民との間に乖離が生じていることではないのだろうか。

例えば、南三陸町は高台移転場所があつて既に新しいまちづくりが進んでいるが、その他の自治体は被災地区を活用しながらの土地利用であり、利用調整などの課題が多いのである。

### 防災対策と災害応援

数多い津波経験を背景に防災無線等のハード面は整備されていたが、住民の避難意識にはマンネリ化で集落間や自治体間にバラつきがあつたことで被災者の明暗も分かれ、釜石市が行っている子供たちへの防災教育の徹底は家庭内にも浸透していることから、大いに参考にすべきである。また、多くの破壊された防

に繋がったことが立証されており、これらの強化も大変重要である。

一方、災害発生時の自治体間の応援協定であるが、町の皆だった筈の防災庁舎で多くの職員が犠牲となる中、奇跡的に助かった南三陸町の佐藤仁町長が自責の念を抱きながらも私に曰く、「災害応援協定は、同時災害に遭わないような遠くの自治体と結べ」と……。そして、現在どの自治体も職員が不足してその補充に苦慮しており、もう少し国の支援が必要ではないかと……。と。

### むすびに

平成22年7月、本町では約50年振りとという大雨災害に見舞われ、二度とあつてはならないと心に刻んでから7ヵ月後に発生した想像を絶する大震災と原発事故、今回、被災地を訪れて実際にその光景を目にし、そして人の営みに触れたとき、時が経っているにも拘わらず改めて悲惨でやるせない気持ちいっぱい視察でありました。しかし、遅れているとはいえ、被災地の皆さんの復興にかけるとも事実であり、大変な中で応対していただいた関係者の皆さんにお礼を申し上げながら結びといたします。

古平町長 本間 順司

# 24年度決算も法律上の 財政指標はクリア

平成19年に制定された『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』では、役場の財政状況を「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4つの健全化判断基準を用いて町民の皆さんにお知らせすることになっています。24年度の決算を用いてお知らせします。併せて公営企業の経営状況を表す「資金不足比率」についてもお知らせいたします。

健全化法では、比率を計算するにあたって一般会計だけでなく特別会計も合算して算出しなければいけません。仮に「早期健全化基準」及び「財政再生基準」を超過した場合には、財政健全化計画または財政再生計画を策定して、国の管理下で財政の再生を目指す必要があります。以下の文中では、わかりやすいように正式名ではありませんが、早期健全化基準を超過した場合は「イエローカード団体」、財政再生基準を超過した場合は「レッドカード団体」と表記します。

## 実質赤字比率(表1参照)

該当なし

税金や国から配分される普通交付税など毎年決まって入ってくる「通常の収入」に対する一般会計の「実質赤字」の割合を表す指標です。一般会計の収支は24年度も実質黒字(表3参照)だったため、昨年に引き続き比率の算出には該当しませんでした。

この比率が15%を超えるとイエローカード団体、20%を超えるとレッドカード団体になります。24年度の場合では、仮に実質赤字が3億

800万円でイエローカード団体、4億1,100万円であればレッドカード団体になっていました。

【表1】H24年度決算に基づく健全化判断比率の状況

(単位: %)

	古平町の健全化判断比率		早期健全化基準 (イエローカード)	財政再生基準 (レッドカード)
	平成24年度 決算	平成23年度 決算		
実質赤字比率	—	—	15.0	20.0
連結実質赤字比率	—	—	20.0	30.0
実質公債費比率	6.1	6.4	25.0	35.0
将来負担比率	49.2	58.5	350.0	

※実質赤字比率、連結実質赤字比率については、収支が黒字のため算出されず「—」

※連結赤字比率の財政再生基準については、H21年度決算までは40%以上、H22年度決算は35%以上、H23年度以降の決算から30%以上となります。

## 連結実質赤字比率(表1参照)

該当なし

「通常の収入」に対する全ての会計の実質赤字の割合を表す指標です。

古平町には、一般会計のほか5つの特別会計があり、「国民健康保険事業特別会計」、「後期高齢者医療特別会計」、「簡易水道事業特別会計」、「公共下水道事業特別会計」、「介護保険サービス事業特別会計」がそれに当たります。下水道会計は一般会計から赤字補てんをして収支の均衡を図った結果により、全6会計の合計は実質黒字で、24年度も引き続きこの指標には該当しませんでした。

この割合が20%を超えるとイエローカード団体、30%を超えるとレッドカード団体になります。24年度の場合では、仮に連結実質赤字額が4億1,100万円でイエローカード団体、6億1,700万円でレッドカード団体になっていました。

## 実質公債費比率(表1参照)

6.1%

「通常の収入」に対する全ての会計の「借入金の返済額」の割合を表す

「通常の収入」に対する一般会計が将来負担する実質的な負債（借入金の残高、特別会計や一部事務組合等の借入返済に充てるための繰出金や負担金の見込額、職員の退職手当支給見込額）から積立金などを差し引いた金額の割合を表す指標です。

24年度の比率は49・2％で、退職手当負担見込額の減少により、昨年の58・5％に比べて9・3％減少しました。

この割合が350％を超えるとイエローカード団体になります。なお、レッドカード団体にはこの比率は用いられません。

**将来負担比率（表1参照）**

49・2％

指標です。借金の返済額の負担割合が多くないかチエックする指標です。

24年度の比率は6・1％で、昨年の6・4％に比べて0・3％減少しました。

この割合が18％を超えると新たな借り入れ（地方債の発行）の際に段階的に制限を受けることになり、25％を超えるとイエローカード団体に、35％を超えるとレッドカード団体になります。

【表2】 H24年度決算に基づく資金収支不足比率の状況

(単位：％)

	古平町の健全化判断比率		経営健全化基準
	平成24年度 決算	平成23年度 決算	
簡易水道事業	—	—	20.0
公共下水道事業	—	—	20.0

※収支が黒字のため算出されず「—」

**■資金不足比率（表2参照）**  
該当なし

公営企業の経営状況を料金収入に対する資金不足の規模で表したものが「資金不足比率」です。この比率が高くなるほど、経営に問題等がある

ると考えられます。

古平町では水道会計と下水道会計が対象になりますが、ともに資金不足が発生していないため、指標には該当しません。

資金不足比率が20％を超えると、公営企業がイエローカード団体とみなされ、経営健全化計画を策定しなければいけなくなります。

【表3】 H24年度 古平町各会計歳入歳出決算額

(単位：千円)

	歳入決算額 A	歳出決算額 B	歳入歳出差引額 C (A-B)	翌年度に繰越財源 D	実質収支 E (C-D)	
一 般 会 計	3,437,535	3,288,411	149,124	65	149,059	
特 別 会 計	国民健康保険事業特別会計	224,356	193,650	30,706	0	30,706
	後期高齢者医療特別会計	57,246	57,152	94	0	94
	簡易水道事業特別会計	181,138	181,138	0	0	0
	公共下水道事業特別会計	261,030	261,030	0	0	0
	介護保険サービス事業特別会計	48,180	39,125	9,055	0	9,055
合 計	4,209,485	4,020,506	188,979	65	188,914	

# お年寄りを地域の皆で祝う!

## 敬老会が行われ、183人が参加

町は敬老の日を前にした9月11日、長寿を祝うとともに町発展のために長年、尽力された方の労をねぎらうために文化会館で敬老会を開催しました。昭和12年12月31日以前に生まれた数え年77歳以上の方が対象で、今年には183人が出席しました。

会では本間町長が「皆さんがこれまで一生懸命に生きてきたことが、古平町の振興発展に繋がりました。誠にありがとうございます」と感謝の言葉を述べたほか、米寿・喜寿85人のうち代表4人に町長から特別記念品が贈呈されました。

続いての懇親会では、小学5〜6年生35人による町伝統のたらつり節踊りや正調越後盆踊り保存会による舞踊、大正琴、唄などが披露され、参加者は手拍子を取るなど大いに楽しんでいました。

米寿の記念品が贈られた須貝キヨさん（浜一）は「皆さんのおかげで長生きできていることに感謝している。今日の敬老会は楽しいので、一

年でも長生きして来年もまた参加したい」と話してくれました。



高齢者番付表 (H25. 9. 7現在)

東

西

町内会名	年齢	氏名	番付	氏名	年齢	町内会名
沢江町	98	田澤 正吉	横綱	小玉 サヨ	98	旭町
旭町	97	朝倉 愛子	張横	大川 シナ	97	入船町
旭町	97	加藤 定光	大関	前田 きみよ	97	沢江町
沢江町	97	吉野 慶一郎	張大	池田 テル	96	旭町
港町	96	逸見 ツネ	関脇	高野 富美	96	浜五
旭町	96	若松 ふじゑ	小結	池内 富美	95	浜三
浜三	95	松井 みね	前頭	田口 甫	95	沢江町
銀座	95	金澤 キセ	前頭二	末政 文治	95	あけぼの
旭町	94	渡邊 静	前頭三	中野 あき	94	清住
丸山町	94	小林 きみゑ	前頭四	成田 キミ	94	浜五
港町	94	高橋 ミナ	前頭五	小林 ヒデ	94	浜三
浜三	93	山口 悦子	前頭六	白岩 シナ	93	入船町
丸山町	93	本間 シン	前頭七	鶴谷 勇雄	93	浜五
銀座	93	青木 スワ	前頭八	前川 吉男	93	旭町
御崎町	93	外崎 キヨ	前頭九	山本 アイ	93	新地町
浜三	93	大堀 イチ	前頭十	埜澤 キミ	92	丸山町
浜五	92	大和田 エイ	前頭十一	藤野 ユキ	92	丸山町
入船町	92	高谷 達雄	前頭十二	山崎 ヤナ	92	丸山町
栄町	92	鎌田 ヤハ	前頭十三	白岩 フミ	92	本町
丸山町	92	大橋 ユキ	前頭十四	山貝 保	92	本町
沖町	92	近江 愛子	前頭十五	高間 フミ子	91	旭町
浜三	91	小野 チヨ	前頭十六	滝内 ソヨ	91	沢江町
泥の木	91	工藤 みよ	前頭十七	松尾 はな子	91	港町
港町	91	竹村 トシエ	前頭十八	上田 キヨ	91	丸山町
あけぼの	91	外山 キミエ	前頭十九	小野寺 ハル	91	浜五

※本番付表は平成25年9月7日現在に作成したものです  
※年齢は満年齢



町長から喜寿・米寿の記念品を受け取る代表4人（上から須貝キヨさん、安澤二郎さん、内山サダさん、富川英樹さん）

# 町の発展に貢献した6人を表彰

## 開町記念日に表彰式が行われる

開町記念日にあたる9月4日、町の発展に寄与された功労者と功績者を表彰する「平成25年度古平町表彰式」が文化会館で行われました。

同表彰式は、開町100年目にあつた昭和43年に「古平町表彰条例」が制定された以後、毎年9月4日に行われています。

今年度の表彰者は事前に10人で構成される表彰審議委員会で決定された功労者2人と功績者4人でした。功労者は固定資産評価審査委員として12年以上活躍された幾井義之さんと、社会福祉委員として今もなお活躍されている大島敏子さんと、町長から表彰状と記念品が手渡されました。また功績者は社会貢献賞1人、産業貢献賞3人でそれぞれ記念の盾が手渡されました。表彰に併せて町に多額に寄付をしてくれた方に対する感謝状の贈呈も行われました。

### 町の出来事



町長から表彰される受賞者

#### 【功労者】

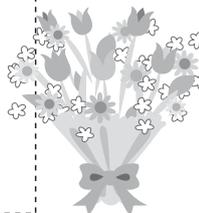
- ・幾井義之さん
- ・大島敏子さん

#### 【功績者】 社会貢献賞

- ・山口明生さん

#### 【功績者】 産業貢献賞

- ・笠井隆義さん
- ・大島啓一さん
- ・森 晃さん



# 避難経路は？ 避難時間は？

## 住民避難訓練に200人が参加

防災週間にあたる9月5日、役場は6mの津波が襲来する想定で町の西部地区5町内会対象の避難訓練を行いました。町民や消防など関係機関から計200人が参加し、避難経路や避難までに要する時間などを確かめました。

古平町単独の訓練は、平成23年の浸水害避難訓練以来、2年ぶり。今回は留萌沖を震源とする震度6

弱の地震が発生し、6mの津波が襲来すると想定。14時5分にサイレンが鳴り、町広報車が避難を呼びかけると住民は、各地区の一次避難場所に避難しました。

本町町内会の木村輔宏会長は「多くの人が参加する有意義な訓練だった。今後、防災無線が完成したら、それを使って再度、訓練を行ってもらいたい」と話してくれ、さらに災害時要援護者として登録している越野ミツイさん（新地町）は「避難する場所は日頃から考えている。歩くのが困難であるから、逃げ遅れるのではないかと不安だ」と話してくれ



一次避難場所に避難する参加者

ました。続いて温泉交流広場で行われた防災講習会では、参加者は津波に対する知識を高めるため津波のメカニズムのDVDを視聴し、自衛隊第11特科隊による災害救助機材等の説明に興味深く受けていました。

8/17(土)

「人生初踊りはすごく楽しかった」～盆踊り大会



矢倉を囲んで楽しく踊る参加者たち

町内にある高齢者関連の施設などが組織する古平町高齢者施設連絡協議会主催の「盆踊り大会」が8月17日、地域福祉センター前の駐車場で行われました。町の伝統文化を施設の利用者に楽しんでもらうため、今年から初めて行われました。

大会には施設の利用者やその職員、地域住民ら100人が参加。古平正調越後盆踊り保存会による踊りや演奏の協力のもと、参加者は着物など様々な衣装を身にまとい、矢倉を囲んで大いに楽しみました。周りの観客も笛と太鼓に合わせて、手拍子で盛り上げていました。風花に入居する米田姫子さんは「人生で初めて踊ってみたが、すごく楽しかった」と話してくれました。

8/20(火)

「古平の良い部分を取り入れたい」～南三陸町議会運営委員会、古平町を視察



お互いの議会の現状を意見交換

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町の議会運営委員会が8月20日、議会の活性化方策などを視察するために古平町へ来町しました。

文化会館で行われた視察は、古平の逢見議長と議会運営委員会の真貝委員長が、南三陸町の7人の議員からの質問に答える懇談形式で進められました。

古平町の議会の現状が説明された後、南三陸町から「議会活動の内容をどのように町民に知らせているか?」「災害などの有事の際の議会の非常体制はどうなっているのか?」などが質問されました。2時間の意見交換後、南三陸町の議員は「古平の議会の良いところを取り入れたい」と話していました。

8/24(土)

「墓がきれいになり気持ちが良い」～れい明の里町内会 墓地清掃ボランティア



2人1組になり燃やせるごみと燃やせないごみを分別して集める参加者たち

古平福祉会の知的障害者施設などで構成される「れい明の里町内会」が8月24日、浜町地区の墓地で枯れた花や持ち帰られない供物等を片付ける清掃ボランティアを行いました。

同ボランティアはお盆が過ぎたこの時期に毎年行っており、今年で31回目です。

参加者は施設の利用者やその職員などおおよそ30人。二人一組になりながら時折、小雨が降る蒸し暑い中、燃やせるごみと燃やせないごみに分別して2時間かけて集めました。

荒山友也さんは「みんなとごみを集めたことで、墓がきれいになり気持ちが良い」と話してくれました。

8/28 (水)

「心臓マッサージは1分間で100回を目安に」～子育て支援センター救急講演会



ダミー人形を使い、心臓マッサージの仕方を学ぶ参加者たち

日常、起こり得る乳幼児の事故やケガに対処する方法を学ぶ救急講演会が8月28日、子育て支援センターで開催、同センターに登録する14人の母親が参加しました。講師は消防の救急係2人。

講習会は、消防職員によるテキストを用いた説明の後、参加者はダミー人形とAEDを用いて心肺蘇生法の仕方を実際に体験しました。消防職員は「心臓マッサージは胸の真ん中を1分間で100回を目安に押す」などとアドバイスをしていました。

8カ月の息子を持つ越後由紀子さん（浜5）は「子どもが物をのどに詰まらせた時、どのように対処したらよいのか不安だった。今日の講習で少し落ち着いて対応できそうだ」と話してくれました。

8/29 (木)

「地域への奉仕活動」～たけなわ学級 漁港清掃ボランティア



漁港内のごみを集める参加者たち

高齢者の生きがいややりたい事、自分たちの培った経験を次世代に伝える場である「たけなわ学級」(事務局・教育委員会)が8月29日開かれ、14人が漁港清掃ボランティアに励みました。

同ボランティアは地域への奉仕活動の一貫として毎年行われています。

参加者は、時折小雨が降る中、火ばさみとごみ袋を持ち、造船場から漁港会館までおよそ50分間かけてごみを拾い集めました。

毎年参加している村田博さん(銀座)は「漁港のごみは、漁師も集めてくれているので、私たちが集めるごみは年々、少なくなってきた」と話してくれました。

8/31 (土)

「去りゆく夏を楽しむ」～温泉しおかぜ 夏祭り



金魚すくいを楽しむ家族連れ

「温泉夏祭り」(株東洋実業主催)が8月31日、温泉交流広場で行われ、350人が去りゆく夏を楽しみました。

温泉利用者への日頃の感謝と今後の集客増に繋げるため昨年から始まった催し。

会場では生ビールや焼き鳥、金魚すくいなどの露店が並んだほか、来場者全員へわたあめが無料配布されました。また温泉年間パスポート券などが当たるビンゴゲームが行われ、会場は大いに盛り上がりました。

年間パスポート券が当たった本間八重子さん(入船町)は「自分が1番にビンゴになってとてもびっくりした。皆が楽しめるイベントだね」と笑顔で答えてくれました。

9/13(金)

「秋風を切りながら健脚を競う」～小学校 校内マラソン大会



一生懸命走る児童たち

古平小は9月12日、校内マラソン大会を今回初めて開きました。これまでマラソン大会は行っていませんでしたが、昨年、校舎前に完成した多目的運動広場を活用して体力増進を図ることが狙いです。

大会は、同運動広場から校舎裏山を登り下りするアップダウンの激しいコースで、1～2年生は1キロ、3～4年生は1.5キロ、5～6年生は2キロに挑戦しました。児童は夏休み明けから週1回、運動広場を走るなどして体力づくりに励んだ成果を発揮し、秋風を切りながら一生懸命に走っていました。

6年生で一位だった藤澤大翔くんは「練習の時よりも結果がよく、がんばれた」と笑顔で話してくれました。

9/9(月)～9/13(金)

「規則正しい生活と学習習慣の定着」～ふるびら通学合宿



一斉学習の時間に真剣に勉強する参加者たち

「ふるびら通学合宿」が9月9日から4泊5日の日程で行われ、小学4～6年生の14人が参加しました。

規則正しい生活や学習習慣を身につけることが狙いで、今年で3回目。

参加者は 午後9時半就寝、午前6時起床 勉強は1日1時間以上 1日30分以上の読書の3項目を共通目標に掲げました。

合宿中、参加者は3班に分かれ、夕食作りを手伝ったり、自主学習や読書を行い、規則正しい生活を送りました。

3回連続参加の6年生の藤野未来さんは「生活態度を見直すために参加した。合宿中は時間を守って生活することができた」と話してくれました。

9/15(日)

「園児のがんばりに拍手喝采」～認定こども園ふるびら幼児センターみらい運動会



綱引きで懸命に綱を引く園児たち

幼児センターみらいの運動会が9月15日、海洋センターで開かれ、園児のかわいらしい遊戯などに保護者らは、ほおを緩めて見守っていました。

あいにくの雨天のため、今回は室内での開催となりましたが、父母のほか祖父母や地域の人々など250人以上の観客が集まりました。

園児57人は、かけっこや紅白に分かれての綱引きなど普段の練習の成果を観客の前で一生懸命披露し、親子遊戯の「勇気100%」では、観客から大きな拍手が送られていました。

5歳児の高橋蒼空くんは「かけっこと紅白リレーをがんばりました」と笑顔で答えてくれました。

# 国や道などからのお知らせ

## 【各種自衛官等の募集】

自衛官候補生（男子）を募集します。

◇お問合せ先

自衛隊札幌地方協力本部 小樽地域事務所（小樽市稲穂2-22-4 樽石ビル2F）

☎0134-2255221

## 【秋はヒグマに注意！】

○秋のヒグマ注意特別期間

9月7日（土）～10月31日（木）

○あなたが被害に遭わないために  
・事前にヒグマの出没情報を確認する

- ・一人では野山に入らない
- ・野山では音を出しながら歩く
- ・薄暗いときには行動しない
- ・フンや足跡を見たら引き返す
- ・食べ物やゴミは必ず持ち帰る

◇お問合せ先

後志総合振興局 環境生活課  
☎0136-231354

## 【北海道新幹線開業PRのロゴマーク、キャッチフレーズ大募集】

いよいよ平成27年度末に迫った北海道新幹線の開業。この開業をみなさんに知ってもらうために、道民み

なで盛り上げるために、開業PRのロゴマークとキャッチフレーズを大募集します。

○応募期間 平成25年8月20日（火）から平成25年10月11日（金）まで  
郵送の場合は、当日消印まで有効

○応募方法 郵送またはEメールで応募してください。

◇お問合せ先

〒060-0052  
札幌市中央区南2条東3丁目  
ノヴェロ内 北海道新幹線開業PR会議

☎011-281-6631

Info@hokkaido-shinkansen-navi.jp  
応募要領など詳しくは、北海道の公式ホームページ「北海道新幹線のページ」をご覧ください。  
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/skt/

## 【里親制度をご存じですか？】

「里親」とは様々な事情により家庭で暮らせなくなった子どもたちを、自分の家庭に迎え入れて療育する方のことを言います。

「里親」は特別な方しか出来ないわけではなく、実際にはどこにでもいる普通の家庭のお父さん、お母さんたちです。

「里親」の種別は4種類あります。主なものとして、

・「療育里親」は、実の家庭で療育できない子どもを短期間又は長期間受け入れる里親。

・「養子縁組里親」は、養子縁組だけを前提とする里親。

・「親族里親」は、実親の死亡、行方不明など特別な事情により家庭で養育できない児童を、祖父母や兄弟姉妹など親族が里親となつて療育するもの。

里親登録数が多い地域と少ない地域があるため、管内各地で里親さんが増えていくことが望まれます。是非、里親として登録され、家庭で生活できない子どもたちの養育を担っていただければと思います。

◇お問合せ先

北海道児童相談所 担当…横堀  
札幌市中央区円山西町2-1-1  
☎011-631-0301

## 【道立高等技術専門学院・北海道障害者職業能力開発校の平成26年4月からの訓練生を募集します】

高等技術専門学院はものづくり関連科目の技能・技術を学び、障害者職業能力開発校は障害の態様に応じて就労に必要な技能・技術を学ぶことが出来ます。

訓練科目や定員などの詳細は、ホームページをご覧ください。下記にお問合せください。

## 【石狩森林管理署からのお知らせ】

石狩森林管理署で管理する林道は安全管理上、ゲートに施錠をしており、車両での通行はご遠慮いただいています。しかし無断での入林が後を絶たず、ゲートの鍵損壊も多い月には50件を超えるなど、悪質な入林が続いています。

今後、一部林道に「監視カメラ」を設置し、悪質な行為を行っている者には、警察と連携して対応します。

◇お問合せ先

石狩森林管理署  
☎011-563-6111

★受付期間・試験日（今年度から日程が変更になっています）

		受付期間	試験日
高等技術専門学院	推薦選考	平成25年11月1日（金） ～平成25年11月20日（水）	平成25年12月2日（月）
	普通課程	平成25年11月21日（木） ～平成25年12月15日（日）	平成25年12月20日（金）
障害者職業能力開発校	一般選考	平成25年11月1日（金） ～平成25年11月20日（水）	平成25年12月2日（月）

◇お問合せ先

- 北海道立札幌高等技術専門学院  
065-0027 札幌市東区北27条東16丁目 011-781-5541
- 北海道障害者職業能力開発校  
073-0115 砂川市焼山60番地 0125-52-2774

# 子育て通信



## 絵本で子どもの心とじばを育てよう



日頃、子どもに絵本の読み聞かせをしていますか？

「まだ小さいからいい」「読んで聞いていないから」「一人で読んでいから」などと思っていないでしょうか？

絵本の読み聞かせを始める年齢に「早すぎる」はありません。

子どもは心で思う愛情よりも、子どもを中心とした会話や抱きしめる一緒に遊ぶといった直接的な愛情を求めます。それに親が応えることで安心感や幸せを感じ、心が満たされます。それが、日々のコミュニケーションとスキンシップです。

絵本の読み聞かせは、親と子どものコミュニケーションにとって助っ人のような存在です。ゲームやテレビばかり見せてはいませんか？ゲームやテレビを長時間続けることは、子どものコミュニケーション能力・思考力を奪います。

乳児期から高校生も含め、親とのスキンシップやコミュニケーションが不足すると、子どもの情緒に影響を与え、人間関係がうまく築けない、

非行や友達と些細なことでトラブルを起こす、表情が乏しい、学力低下など好ましくない方向へ向かってしまっていることがあります。

今回は、絵本の効果とお勧めの本を紹介いたします。

### ★絵本の効果

物語を通して、子どもの想像力が育つ  
集中力が養われる  
親が絵本を読むことによって、親子の絆が深まる  
子どもの安心感や情緒の安定に繋がる

### ★読み聞かせのポイントと注意

読み聞かせる時に、無理に演技をする必要はありません。絵本の読み聞かせで大切なのは、一緒に絵本の世界を楽しみ、共有することなので、「演技をしなくては！」と思う必要はありません。

読み手の話し方が、赤ちゃん言葉にならないように気を付けましょう。子どもは親の話す発音や言葉使いを「正しい」と思って覚えます。子どもは日によって、物語を聞きたい時やイラストを楽しみたい時など様々です。イラストを楽しみたい時に無理やり物語を聞かせようとすると、子どもは聞く気にはなりません。子どもの気持ち尊重して絵本を楽しみましょう。

### ★おすすめの絵本

◎「だるまさんが」(ブロンズ新社)  
一見普通のだるまさんが動き出すと...だるまさんが見せてくれる様々な表情に、子ども達も大喜びです。赤ちゃん絵本にもどうぞ



◎「きんぎょがにげた」(福音館書店)  
まあるく小さなきんぎょが、あちこちへ逃げて行き...きんぎょの逃げっぷりに笑いがこぼれます。  
「きんぎょはど



こ？」と聞くと子どもは、指さして答えてくれます！

◎「くれよんのくろくん」(童心社)  
子どもに人思いやるやさしい気持ちを教えてくれます。読み終わった後は画用紙にいっぱいのお絵描きがしたくなるはず



子育て支援センターでは、無料で絵本の貸し出しを行っています。ぜひ、たくさんの絵本を読んであげてください。

◇お問い合わせ先

保健福祉課 健康推進係

☎ 42-21182

子育て支援センター

☎ 42-41511



# ふるびら 元気っ子

町内に住む満1歳になる子どもを紹介します。今月号は9月に誕生日を迎えた子どもです。



細川 <sup>みなと</sup> 湊 <sup>ちゃん</sup>  
9月5日生  
保護者 吉三さん 文佳さん  
(文佳さんより)  
友達を大切にする子に  
なってほしい

## 2013漁業センサスの実施

漁業センサスは、5年ごとに行われる水産業の実態を明らかにする「水産業の国勢調査」ともいって大きな調査です。農林水産省が北海道や古平町などの各市町村を通して実施する調査で、漁業者や水産関係者の方々に調査票を記入していただくこととなります。調査のご協力をお願いします。



### ◆古平町の調査員

- ・池田 三千代さん(浜3)
- ・相内 文代さん(御崎町)
- ・高見 純子さん(清住)
- ・山條 美子さん(沢江町)

### 医療受給者証の更新のお知らせ

現在、お使いになられている重度心身障害者、ひとり親家庭等の医療受給者証の有効期限は9月30日までです。

所得の状況により負担区分が変更になりますので、前年中の所得判定をした後、新しい受給者証を9月末までに郵送いたします。(過去に手続きをされている世帯は、改めて更新の手続きの必要はありません)

平成25年1月1日以降に転入された世帯の方は、前住所地での所得課税証明書を提出していただくこととなります。

万が一、10月になっても新しい受給者証が届かない場合は、恐れ入りますが左記のお問合せ先までご連絡願います。

なお、乳幼児及び児童医療費受給者証は、15歳到達の年度末までの有効期限ですので、更新はありません。

お問合せ先

民生課 健康保険係 和泉・人見

☎ 42-2181 (内線39・57)

障別		重度心身障がい者医療費受給者証	
記号	0984	番号	000
住所			
氏名			
生年月日	昭和 年 月 日		
有効期間	平成25年10月1日から 平成26年9月30日まで		
発行機関名	北海道古平郡		
及び印	古平町長		
交付年月日	平成25年10月1日		

医療受給者証の見本

### 消防 指揮広報車を配備

古平消防は9月2日、指揮広報車を配備しました。

平成13年に購入した火災予防連絡車の老朽化に伴い、今回更新しました。同車は全長541cm、幅188cm、高さ248cmで、トヨタハイエースを改装したものです。購入費はおおよそ510万円。

火災や災害が発生した際には、消防団員が適切な活動が行えるよう、迅速に現場に駆け付けられることや資機材を搬送することなどに使用します。また平常時は火災予防の普及啓発など幅広い使い方をします。



古平消防に新たに配備された指揮広報車

# いきいき・ほのぼの文芸

## 古平町岬短歌会



夏休みの孫らと遊ぶ洞爺湖の船はにぎやか中国語かな  
庭畑に弾けとびさう山あざみうす紫の花の清しく  
やはらかき月光つよげの下佇みて眺むる庭に夏花ゆるる  
若からぬ友らと寄りし花の宴文部省唱歌うたひて終へぬ  
ナナカマド夏なのにもつ葉が紅く考へられぬこの暑さの中  
茎太きカサブランカに十八の蕾心くらみ次々咲きぬ  
盆最中の車窓につづく緑深く窓を開ければセミの鳴く声

泉 清三  
金子 寿子  
坂本 信子  
鈴木 時子  
田中 香苗  
寺田 カツ子  
仲谷 喜美能

## 古平俳句会

流木を波に晒して浜の秋  
灼けすぎた砂の隙間の残暑かな  
対岸の灯ちらちら星月夜  
吾が人生支えし硯洗ひけり

渡辺 嘉之  
山口 悦子

灣の闇更に深めて星飛べり  
一片の雲なき盆の月夜かな  
咲き満て微風にゆるる百合の花  
子の休み今日より母も夏休

室谷 弘子  
仲谷 比呂子

七夕や去年と同じ願いごと  
ゆつくりと雲間を抜ける盆の月

山口 哲



## 10月の休日当番病院

- ◆10月6日(日)  
勤医協余市診療所  
(☎22-2861)
- ◆10月13日(日)  
ながい小児科医院  
(☎23-6881)
- ◆10月14日(月)  
田中内科医院  
(☎22-6125)
- ◆10月20日(日)  
小嶋内科  
(☎22-2245)
- ◆10月27日(日)  
林病院  
(☎22-5188)

※当番医の診療時間は9時〜17時まで  
※夜間については余市協会病院で急患  
に限り診療しております。  
診療時間 午後6時〜翌日午前7時  
診療科目 内科、小児科、外科、  
整形外科



ご寄付いただき誠に  
ありがとうございました(敬称略)

◎現金

- 10,000円
- 上田 茂樹(浜 3)
- 30,000円
- 中尾 祐次郎(兵庫県西宮市)
- 100,000円
- 原田 隆(神奈川県横浜市)

### おたんじょうおめでとう

氏名 生年月日 保護者 町内  
高橋 雄心たかはし ゆうしん 9・8 雄太ゆうた 浜 1

### ご冥福をお祈りいたします

氏名	年齢	死去月日	町内
木口新太郎 <small>きぐち しんたろう</small> さん	82歳	8・14	旭町
角田 慶吉 <small>かくだい けいきち</small> さん	90歳	8・19	浜町
竹谷 信幸 <small>たけやに のぶゆき</small> さん	55歳	8・30	本町

### 町の人口と世帯数

	前月比
人口	3,511人 (-2)
男	1,651人 (-2)
女	1,860人 (0)
世帯数	1,870世帯 (-3)
外国人	19人 (0)
男	2人 (0)
女	17人 (0)

(平成25年8月末日現在住民基本台帳人口)